

# いわちゃん ポスト

岩井やすのりの県政かわら版

千葉県議会議員



# 岩井やすのり

**略歴** 1970年(昭和45年)生まれ50歳  
専修大卒、早稲田大学院 政治学研究科修了

事務所連絡先 TEL: **0476-36-7799**

HP: <http://www.iwai-y.jp> メール: [mail@iwai-y.jp](mailto:mail@iwai-y.jp)  
印旛郡栄町安食台 2-26-23 (栄町役場前大山ビル 2F)

新型コロナウイルス感染症予防のため、配布者の検温とマスク着用、頻繁な手指消毒を行いながら、朝の駅頭活動を実施しています。

## 国道16号渋滞緩和へ 千葉柏道路の検討本格化

外環道や北千葉道路の開通後も慢性的な渋滞にある国道16号。国、県は、同路線を補完する道路として、野田市と印西市を利根川沿いルートで結ぶ、千葉柏道路の具体的な検討に入ることが明らかとなりました。

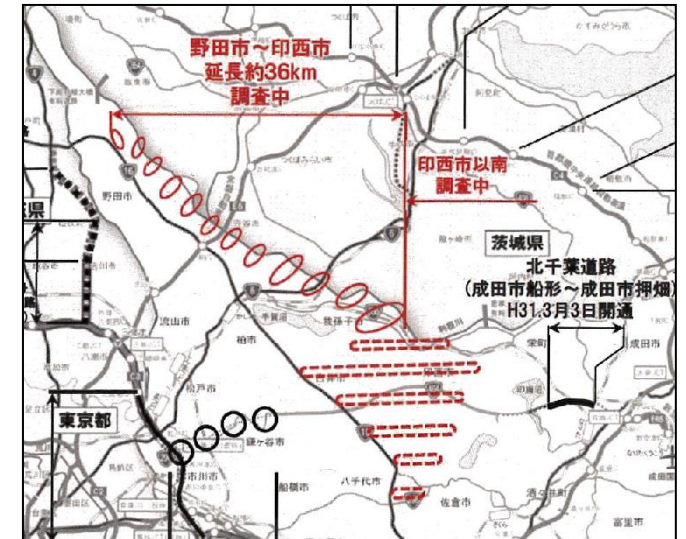
### ●直轄国道 渋滞ポイントワースト1・2位が16号

国道16号は千葉市から東葛北部地域を結ぶ唯一の広域幹線道路であり、首都圏の環状道路としても位置付けられているところです。

同路線は上下線合わせ4車線で整備されているものの、柏市大青田における交通量は12時間あたりで3万台超と全国屈指の多さ。地域を通過する物流車両の利用が目立ち、大型車混入率は4割にまで上ります。結果、野田市駅入口交差点、柏市大青田、千葉北インターチェンジ、穴川インターチェンジ付近などでの渋滞が慢性化。昨年4月に公表された「直轄国道における渋滞ランキング(国交省)」では、全国ワースト1位(穴川インター交差点付近)、2位(呼塚交差点付近)ともに国道16号というゆゆしき事態に陥っているのです。

### ●10年越しの新たな一歩 国主導での再始動

今年6月に開催された県道路協議会では、「第2湾岸道路」とともに「千葉柏道路」が議題に。国道16号には主要渋滞箇所が多数存在し、2018年の外環道(三郷南～高谷ジャンクション)、北千葉道路(成田市船形～押畑)の開通後も、国道16号では深刻な渋滞が発生していると指摘。また、今年の台風19号では、柏市をはじめとする田中調整池内の市道が多数冠水し、並行する国道16号に交通が集中することとなったことも挙げられ、その補完道路として野



田市～印西市間の約36キロ区間で想定する、千葉柏道路・利根川沿いルートについての新たな検討の場を立ち上げ、具体的な検討を始めることが明らかとなりました。これまで約10年間、目立った進展がなかった中で、国主導で再始動を図る格好です。

なお、8月には板倉印西市長をはじめとする関係自治体の首長が関係省庁を訪れ、要望書を提出。千葉柏道路の早期事業化や国道16号の短期的な渋滞対策の実施等を求めています。

### ●印西市以南ルート開通で道路交通要所地に

一方で、八千代市や佐倉市方面へ向かう「印西市以南のルート」については、未だ構想が固まっていません。以南ルートも完成し、県南の木更津市同様の道路交通の要所地となれば、印西、北総地域のさらなる発展が期待される場所。関係者とともにその実現に向け強く働きかけを行ってまいります。

# 衆院選 自民県議らが鎌ヶ谷市長擁立へ～各支部は冷静な反応

8月、千葉13区内の自民党県議らが、衆院選に鎌ヶ谷市長の清水氏を擁立するよう、県連に嘆願書を提出。自身は、一部の県議を中心とした性急な動きに反意を表明する一方、自民党の各地域支部も冷静に見ているというのが実情です。

## ●区切りがついた問題の蒸し返し、唐突な公認差替え話

そもそも、2月県議会の会期中に開かれた関係県議による会合。IR 事業を巡る汚職事件に絡み、白須賀衆議院議員事務所が家宅捜索の対象になったこと等から、白須賀氏に何らかの処分を求めていくべきというものでした。その後、7/2に自民県連会長による県議への聞き取りが行われ、党本部による処分の決定を待つということでひとまず落ち着くことに。ところが、7月下旬からまた相次いで県議団の会合が開かれるようになり、区切りがついたはずの白須賀氏の問題が蒸し返されたばかりか、清水・鎌ヶ谷市長を擁立するという話が唐突に上がってきたのです。

7/2の時点では、公認外し、公認差し替えの話は全く出ていなかったにもかかわらず、すでに7/22には一部県議から「清水氏を擁立する」との情報が漏れ出ています。その後開かれた7/29、8/3の会合で、「白須賀氏に問題がある」「公認候補を代えるべき」等の意見が強まったことに、清水氏を衆院候補として擁立したいがために、白須賀氏への批判を再燃させたのではとの疑念の声も上がっています。

## ●ベテラン県議を敵に回す格好も若手として筋を通します

ところで、各市町には党に所属する議員や一般党员にて構成される党地域支部があります。県議と言えども一議員に過ぎず、地域住民とともに地域支部の支えがあってこそ議員活動が行えると言っても過言ではあ

## 清水氏擁立を巡るこれまでの経緯

7/2	自民党県連にて県連会長による聞き取り 県議団から上がった白須賀氏への処分を求める声に、県連会長が意見聴取。党本部に報告するということで、ひとまず落ち着くことに。
7/22	県議団で会合。(岩井は呼ばれず) 一部県議「清水・鎌ヶ谷市長を擁立する」と発言。
7/29	千葉市内にて県議団による会合
8/3	白須賀氏より県議団に経緯を説明。白須賀氏の退席後、公認差し替えの是非について県議団の意見が分かれる。清水氏が出馬の意欲を固めたとの報告も。
8/8	一部県議を中心としたグループが、衆院選に清水氏を擁立するよう県連に嘆願書を提出。

りません。ところが、今回の問題でないがしろにされてきたのがこの地域支部。岩井は「支部からの声も上がっていない中、県議だけで話を進めるのはどうか…」と意見しましたが、中では最も若いということもあり相手にもされませんでした。

私自身は各支部の意見をしっかりと吸い上げるべきと、地元栄町支部をはじめとする5地域の支部長と緊密に連絡を取り合っていますが、各支部はいずれも冷静な反応。「党公認候補を推すのが当然」「清水氏は応援できない」との声が大勢を占めています。

岩井としても公認候補である白須賀氏を推すというのが筋。13区内のベテラン県議勢を敵に回す格好となり苦しい立場ではありますが、臆することなく若手としての意見を貫いてまいります。

